

神戸大学と漢陽大学の共同研究発表会：
高齢化社会における福祉・労働政策共同研究発表会
韓国ソウル、漢陽大学、5月27日〔金〕10:00-17:30

経済経営研究所
教授 井川一宏

漢陽大学校経済研究所・経済金融大学と神戸大学大学院経済学研究科・経済経営研究所の共同シンポジウムは、毎年韓日を交代して行われ、今年で三回目である。本年は漢陽大学で行われ、テーマは「高齢化社会における福祉・労働政策」であった。

神戸大学側からは、所長に代わって西島副学長、中谷研究科長が機関代表者として参加され、報告者として、研究所から趙助教授、研究科から三谷教授が参加された。

趙来勲助教授は、“International Labor Standards and Their Harmonization”，三谷直紀教授は、“Employment of Older workers and Wage Structure”のタイトルで報告された。漢陽大学側からの報告は、朴大槿教授、“Population Ageing and Asset Markets: A Cross-Country Panel Study”と申哲印教授、“The Impact of Population Aging on Labor Productivity”であった。

西島副学長（私も同行）は国際協力室長の李素晶教授と国際交流に関しては話され、その後、金鐘亮総長に面会された。それには中谷研究科長も加わり、李利衡副総長と呉雄鐸財務處長も出席された。総長は神戸大学の野上学長とも交流が深く、神戸大学側の訪問に対して非常な歓待を示してくださった。

大学間の交流を共同研究の場に生かす企画として有意義なものであり、神戸大学のCOE資金を使ったレベルの高いシンポジウムであった。現在研究所に外国人客員教授として5ヶ月〔予定〕滞在しておられる趙炳澤先生は、この共同研究発表会の創設以来ずっと漢陽大学側の窓口となってお世話くださっていて、今回も帰国して全てのプロセスで多大なご協力を賜った。心から感謝申し上げたい。